

当院で大腸切除術を受けられた患者さんへ

2016.2 ver1.0

2017.4 ver1.1 改訂

2019.1 ver1.2 改訂

2023.4 ver1.3 改訂

当院では、大腸切除術を受けられた患者さんの術後の傷の感染や縫合不全（腸と腸の縫い目がほころびること）の発生頻度を調査しております。

2007年5月4日以降に大腸切除術を受けられた患者さんのカルテを使い、データを集積しています。改めてこちらからお伺いすることはありませんが、もし疑問点等ございましたら、お知らせ下さい。

研究の意義：

手術後に傷の感染を起こすことは、傷の治りの遅延や、入院期間の延長など、患者さんへのデメリットも多く、その抑制には術後の傷の感染の発生頻度をモニタリングしていくことが有効とされています。また当院における手術操作の有効性を評価する根拠となり、発生頻度を継続して調査していくことは、これまで行われてきた治療や今後行われる治療・介入の成績を検討するための比較参照データともなります。

研究の目的：

当院における大腸切除術の術後の傷の感染や縫合不全の発生頻度を明らかにすることを目的とします。

研究方法：

2007年5月4日から2023年3月31日に入院し、大腸切除手術を施行した患者さんのカルテより以下の情報を収集させていただきます。

ID（病院カードの患者識別番号）、氏名、性別、手術日、病名、緊急手術の有無、術式、既往歴、喫煙などの嗜好歴、合併症、採血データ、傷の感染や縫合不全の発生日、退院日、予後、感染した場合の細菌名。

研究の対象となる患者さんへ：

プライバシーの確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を公表する際には、症例のグループごとの解析結果の発表となり、患者さん個人が特定されることはありません。それでも、ご自身のデータを研究に使ってほしくないとお考えの場合には、下記にご連絡下さい。ただし、既に発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承下さい。

この研究に関するお問い合わせ先：

〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160

四国がんセンター

消化器外科 小島 誉也

感染管理専従看護師 宇都宮 遼

電話：089-999-1111